

第1回 浪江町景観計画策定委員会  
議事要旨

日時 令和6年3月7日(木)10:00~11:30  
会場 浪江町役場2階庁議室

1 会議概要

(1) 趣旨

委員の委嘱、景観行政について説明、景観計画策定の進め方など

(2) 出席者

市岡委員(委員長)、鈴木委員、永橋委員、鹿股委員、佐藤委員(副委員長)、  
葛西委員、小山委員、大橋オブザーバー、事務局(市街地整備課)

2 議事概要

(1) あいさつ 成井副町長

東日本大震災及び原発事故から、間もなく14年目を迎えようとしている。当町においては本格的な復興事業がようやく始まろうとしているが、新しい建物の建築や多くの開発事業を進めると共に、「浪江らしい景観」を守り、育てていくことも未来に向けた浪江のまちづくりの重要な施策の一つと位置付けている。

計画策定にあたっては、皆様より忌憚のないご意見を頂戴し、素晴らしい計画が策定されることをお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

(2) 報告事項

(事務局)

①景観・景観計画・景観行政について、②検討スケジュールについて、③策定委員会の進め方について、④アンケートの実施状況について、資料に基づき説明。

(委員)平成13-14年頃、114号線を拡張する際に、景観計画のようなものを策定したはずであるが、それはまだ有効であるか。

(事務局)当時策定したものは建築協定であり、現在も有効である。

(委員)具体的にどの区域、場所を指定するか。高さや色などを指定する区域はどのように設定するか。

(事務局)景観計画は浪江町全域が対象、高さや色のルールを定めるもの。

このほか、重点地区として、範囲を指定してより詳細なルールを決めていくことも想定している。地区の範囲はこれから検討、設定していく。

(委員)アンケートの回答数は現在どのくらいであるか。

(事務局)現在は15-20件程度。現在は広報なみえでの告知のみであり、今後、町の公式SNSなど他の媒体も活用しながら回答数を上げていきたい。

(委員長)委員の方々からもアンケート依頼への周知協力をお願いしたい。

(委員)空き地の検討もしなくてはならないが、それは景観計画で策定されるか。

(事務局)空き地については、景観計画として定めることは難しいが、町として課題意識をもっている。

(委員長) スケジュールは案のままか。或いは本日の委員をもって確定されるものか。

(事務局) 現状の想定であり、状況に応じて変更する可能性はある。

(委員長) かなりタイトなスケジュールである一方、アンケート・ワークショップも行き、町民の意見等を聞きながら進める必要がある。アンケート回答者・ワークショップ参加者については、各委員にも協力いただきながら進めたい。

### (3) 協議事項

(事務局) ①計画の検討・策定方針、②調査方法、③ワークショップの実施方針について、資料に基づき説明。

(委員) 114号線上の建築協定がまだ有効ならば、それらに沿って景観条例も定めていくのか。

(事務局) 景観計画は、建築協定とは別のものである。建築協定の取扱いについては今後検討していきたい。

(委員長) 現在の建築協定について、委員メンバーへの共有をお願いしたい。

(委員) 町内には細い道路もたくさんあり、景観的にも重要な要素も多い。それを全て守っていくことは難しいとも思うが景観計画としてどのように整理していくか。

(事務局) 駅前は、権現堂条里制跡であり、100m程度の区画となっている。駅前整備において多少の区画変更は行っているが、その他はそのまま守っている。細い道路を全て守るということは難しいが、浪江町らしさが残る部分については景観要素として守るルールづくりをしていきたい。

(委員長) コンパクトシティ、歩いて過ごせるまちづくりも重要であり、細い道路も大切な要素となる。

(委員) 今後整備が始まるF-REIを計画・建築していく方とも調整されていくか。

(事務局) F-REIの施設整備については、浪江駅周辺整備と調和のとれた景観となるよう町から要望を行っている。

(委員) ワークショップについて、町内での開催になると思われるが、浪江町内に住んでいない方に対して告知は行わないか。また、ワークショップの参加者は世代が偏りがちとなる。多世代が参加するワークショップとすることも大切。

(事務局) ワークショップは広報なみや町の公式SNSなどを通じて町外居住者にも告知する。多世代の参加が必要となることも同じ認識である。

(委員) 町外に居住している方をはじめ、たくさんの意見を聞くことも必要であるが、意見が理想に終始し、現実的ではないものになる、また拡散する懸念もある。最後は町内に居住している方の意見を捉えていく形が良い。

114号線の際にも理想からの意見が出ていた。

(事務局) 町内居住者と町外居住者で、生活空間として捉えていただけるかに違いが出る。人数は町外居住者の方が多い。行政としても難しい問題と捉えている。広報にて発信することで全町民にアナウンスし、また、町内居住者の意見にしっかりと耳を傾ける必要がある

(委員長) 実施中のアンケートは広く取りながらワークショップにて議論が深められ

ると良い。

(委員)水路、川について、水門などの維持管理も含めて考えていきたい。また、多くの水路で冬期間に水がなく、水を流してほしい。蛍がいるエリアもあった。

(委員)水が流れないと機運も上がらない。以前はサンプラザ近くの水路ではしじみも採れた。しかし、震災から戻ってきた際にはいなくなってしまった。

(委員長)生活を維持する仕組みも含めて景観を考える必要がある。

(委員)駅周辺ランドデザインがあり、それに景観計画を寄せていくのか。何を軸に計画を策定してくか。

(事務局)駅周辺整備はアースカラーをベースに設計デザインお願いしている。町全域に対しても、全く異なるものではなく、ランドデザインを踏まえたものとしていきたい。

(委員長)全く合致していくものではなく、ベースを定め、範囲を指定しながら緩急を定めていくと理解している。

(委員)住宅においても太陽光が増えており、景観が悪いという意見もあるので検討を深めていきたい。

(委員)双葉や大熊において、新しい町になってしまうという声がある。

新しい町と捉えられないよう、知らないところで策定されることとならないよう、ワークショップ等には町民を多く参加させていきたい。町民と一緒に策定したものとしていく形が良い。

(委員長)まずはアンケートが重要と認識。3.11が近づく中、浪江町に訪れる方も多くなるので、QRコードをいれたポスターを設置するなど工夫が必要。学校などへもアプローチを行うことも一案。

(委員)地域の方が主体となるので、アンケートやワークショップが重要となる。

(委員)多くの意見が必要であるが、全員の意見を聞くわけにはいかない。関わりたいという方に対し、個人的にも声をかけていきたい。ワークショップの参加者はどのくらいを想定しているか。

(事務局)ワークショップでは地区ごとにグループをつくり意見交換を行いたく、6地区5人ずつ最低各1テーブルあると良い。

(委員長)各委員からの声掛けなど協力をお願いしたい。

以上